

## 第8回 第3期中海自然再生協議会議事録

日時 平成24年10月21日(日) 14:45~16:00

場所 島根県職員会館(県庁内) 多目的ホール

協議会に先立って、中村正久滋賀大学環境総合研究センター特任教授による協議会主催の公開講演会「日本と世界の湖沼流域管理—流域ガバナンスの課題と展望」が13:00~14:30、同所において行われた。その後、中尾協議会会長の司会のもとで、以下の議事が行われた。

### 議事

1) 4つの実施計画(①アマモ場の保全・再生事業、②海藻類の回収および利用事業、③砂浜の保全・再生事業、④浚渫窪地の環境修復事業)の平成24年度の進捗状況報告および今後の事業計画についての討議

④については桑原、斉藤両氏から10月3日に米子コンベンションセンターにおいて「中海浚渫窪地の環境修復をどう進めるか」のパネル展時と講演・討論会を実施し、多くの参加者があり、実施事業の紹介とともに意見交換がなされたことが報告された。また、NPO法人自然再生センター徳岡理事長からNPOとしてモニタリングを責任をもって実施することになり、協議会には適宜報告することになるが、協議会としてのなんらかの対応を考えていただきたいとの意見が述べられた。

③については田守氏からその後の経過が述べられ、大山からの土砂の利用の可能性もふくめて、砂浜造成の対象となる米子湾を中心にバスを利用した見学会と意見交換会を近く実施する予定との報告があった。

①については國井氏からその後の経過が説明され、また、奥森氏からアカエイによるアマモの被害およびアサリの食害についての現状報告がなされた。

②については中尾氏から承水路でとくにホトトギスの生態学的な調査を継続していることが述べられ、事務局からは自然再生センターと未来守ネットワークが両県からの関連した委託事業をすすめていることが説明された。その後、渡辺氏からppt資料により藻刈りの状況と畑での利用などが進んでいる状況および海藻の利用による効果の実証が進みつつある状況が報告された。

ついで、今後の事業計画についての討議では、中尾会長から自然再生推進法にもとづいて進めるということの意味について発言があり、高安氏(前協議会会長)からは、全体計画を議論している段階ではそれぞれが立ち位置は異なっても、自然再生という大きな目標に向けてそれぞれのベクトルが同じ方向を向いていればそれでよいという意味のことを言ったが、実施事業の段階においては、個々の事業の進捗状況や効果について、まず事業ごとにそれぞれの主体が自己点検評価をすべきであろう。その上で、全体として大目標に向かっているか、効果は上がっているか、といった判断をする場合は必要で、協議会がその役割を担うことになるのではないかと

の意見が述べられた。中尾会長からは今後、協議会としての検証が必要であろうとの意見が述べられた。

2) 平成 24 年度の中海自然再生協議会の持ち方とアドバイザー会議について

國井事務局長から協議会はおおよそ 3 ヶ月間隔くらいで行うことが述べられた。実施事業のそれぞれのモニタリングについてはアドバイザー会議で検討してもらうとの発言があった。

(以上)